



さくらんぼだより

草笛学園 2025年 5月号

日中は、夏日のような日が続いているが、朝晩はまだ肌寒く感じる日もあり、気温の変化に体調を崩してしまいがちなこの季節。衣服の調節をしたり、食事や睡眠をしっかりとったりしながら、元気に過ごしたいものですね。

<活用されはじめた「考える力」さまざまに思いをめぐらせて自ら解決策を見つけ出す>

思いをめぐらせる力を育てるために

「運動会の種目が竹馬になった。ボクにはできそうもない」と感じて、ひるんで参加しなくなってしまうならば、4歳児クラスのときと同じです。5歳児クラスの子どもたちは、「できないかもしれない。だけど、4歳児クラスのとき、縄跳びができないと思っていたけれど、一生懸命練習したらできるようになった。だから竹馬だって、練習すればきっとできるようになるだろう」と考えて、前向きにチャレンジするようになります。

「どうすればよいのか」を考えるために、複数の判断を結びつける接着剤の役割を果たしてくれるのは、それまでの経験です。

しかし、経験さえすれば、その経験が今に生かされるのかというと、必ずしもそうとは言えません。過去の経験が呼び起こされ活用されるか、思い出されないまま埋もれてしまうのかということがいがありそうです。

「今度の家族旅行には、どこに行きたい？」とたずねたとき、子どもが「わからない」と答えて会話が終わってしまうことがあります。おとなは「自分の意見を言えるようになることを考えることだ」と思うので、すぐに意見を求めがちです。しかし、軽い質問であっても、意見を求められたときには人間は緊張します。「わからない」と答えるのは、軽い緊張が生じて、子どもの思考が止まってしまった姿だと見えるでしょう。いきなり意見を求めるのではなく、過去の思い出をよみがえらせるように言葉をかけるならば、子どもの思いがめぐりはじめます。

親 「去年の家族旅行はどこに行ったっけ？」

子ども 「〇〇山に行った」

親 「そうだったね。△△ちゃんは、一番でっぷんまでのぼったよね」

子ども 「あのね、すごく疲れたけどね、おもしろかった」

親 「そうか。じゃあ、今年はどこに旅行に行こうかな？」

子ども 「こんどは海に行きたい」

このように、過去を呼び起こす会話をしたときに子どもの思考力はめぐりはじめ、その結果として意見を言えるようになるでしょう。あとで活用されるように経験を自覚的に記憶するためにも、やはり言葉が必要です。山の頂上まで登ったあとで、

親 「△△ちゃん、すごかったねえ。おとうさんよりも早く登っちゃったもんね」

子ども 「だって、お父さん、すごく遅い」

…というように、経験の直後に簡単な会話を感想を述べ合うならば、会話によって経験が自覚化されるので、あとで引き起こされやすい記憶として、子どもの心の中にしまわれるでしょう。

忙しい日常生活。指示する言葉が多くなりがちです。夕飯のときやお風呂に入っているときなど、子どもといっしょの時間をとれるときには、思い出話や感想を語り合うとよいと思います。そうすることによって、言葉で考える力は思いをめぐらせる力となり、かしこさとして育っていくのではないかでしょうか。

[はじめての子育て 育ちのきほん 0歳から6歳 / 神田英雄 著]



次回のさくらんぼ教室は・・・

さくらんぼ① 6月 12日【そとあそび】

持ってくるもの：水筒・帽子・着替え・タオル

さくらんぼ② 6月 26日【しゃぼんだま】

雨天の場合：サーキットをします

持ってくるもの：水筒・帽子・着替え・タオル



就学について話をします！

(13:45~15:00)

今後の流れや手続きなどについてお話ししますので、ぜひご参加ください！

お話の間、子どもたちは、職員と外あそびをしたり、オヤツを食べたりします。

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

*お休みをされる場合は、学園までご連絡下さい(972-3950)

*参加費は、オヤツ代の100円です。製作やクッキングの時は、材料費として+100円いただきます。おつりのないようご用意下さい

*くつは、下駄箱に入れて下さい

*室内用のシューズを持ってきて下さい(保護者の方も必要な方は、ご準備下さい)

*水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えて下さい)

*ケガ防止のため、必ず爪を切ってきて下さい